

凡例

道路・鉄道

- 高規格道路(予定)
- 国道
- 県道・主な市道
- 鉄道
- 鉄道トンネル

避難所・防災関連施設

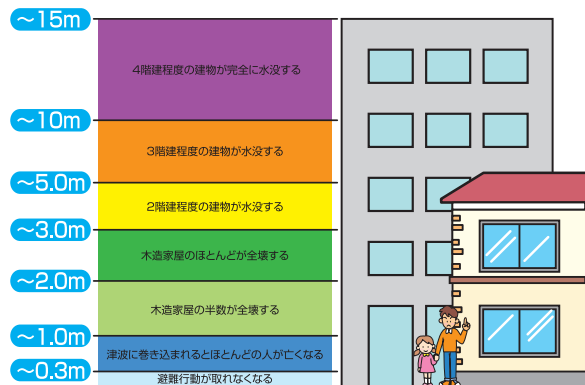
- 収容避難施設
- 市役所
- 警察
- 消防署
- 消防分団屯所
- 医療機関
- 災害時要援護者受入施設
- その他の主要施設
- 津波一時避難場所(津波一時避難ビル等)
- 水防倉庫
- ヘリコプター発着場

災害予測 津波(高知県津波浸水予測図資料より)

- 浸水深が10.0m以上15.0m未満
- 浸水深が5.0m以上10.0m未満
- 浸水深が3.0m以上5.0m未満
- 浸水深が2.0m以上3.0m未満
- 浸水深が1.0m以上2.0m未満
- 浸水深が0.3m以上1.0m未満
- 浸水深が0.3m未満

- 宝永地震による津波被害区域
- 土石流危険渓流(流域)
- 土石流危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)(平成25年2月現在)
- 土砂災害警戒区域(土石流)(平成25年2月現在)
- ため池
- ため池洪水流出想定範囲

津波による浸水深の目安



活用にあたっての注意事項

- この津波浸水予測図は、最大クラスの津波による浸水域・浸水深を重ね合わせて示しています。
- 海岸堤防や河川堤防は「なし」の条件で推計しています。
※コンクリートで建設された堤防:堤防が全くない条件
※土で築造された堤防:地震後は25%の高さに沈下し、津波が越流すると同時に「なし」の状態になる。
- 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

避難ルートは最低3つ必要だぞー!



©やなせたかし



©やなせたかし



©やなせたかし

洪水、津波による浸水が予想される区域内の避難所は、浸水する危険性がありますので使用には十分な注意が必要です。
また避難所まで避難する間がない時は、十分な高さのある建物や高台に避難するようにして下さい。

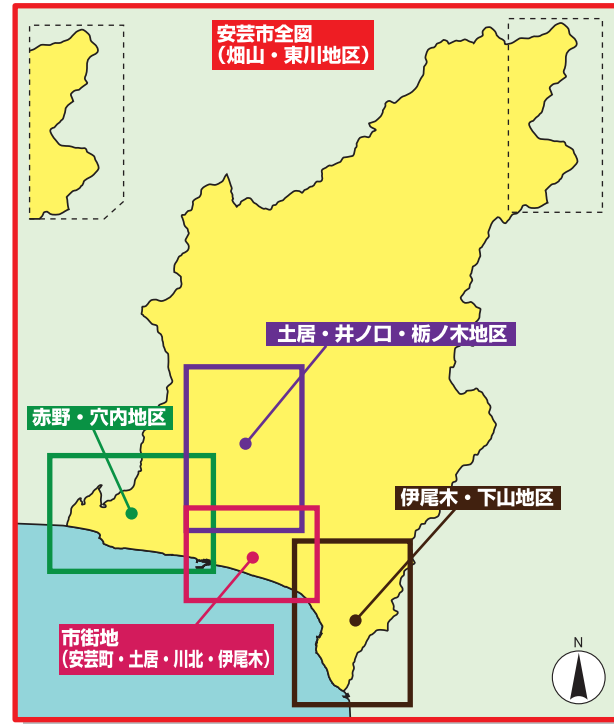
目次

防災のしおり

- 公共施設・医療機関・災害時要援護者受入施設一覧 1P
- 地震 2~3P
- 南海地震は必ずおこる 4P
- 津波 5P
- 風水害 6P
- 豪雨・土砂災害 7P
- 火災に備えて 8P
- いざという時の応急処置 9P
- 地域防災 10~11P
- 情報伝達・避難情報配信サービス 12P
- 災害伝言ダイヤル・伝言板 13P

図面の配置

津波・土砂災害ハザードマップ



- 安芸市全図(畑山・東川地区) 14~15P
- 赤野・穴内地区 16P
- 土居・井ノ口・栃ノ木地区 17P
- 市街地(安芸町・土居・川北・伊尾木) 18~19P
- 伊尾木・下山地区 20P
- 非常持出品・備蓄 21P
- わが家の防災メモ 22P

岡村教授からの一言(南海地震から生き延びるために)



監修：高知大学総合研究センター 防災部門 特任教授 岡村 真

- 最初のゆれでけがをしないこと
- 事前の対策がすべて(家屋の耐震診断・耐震補強、家具の転倒防止、寝室に靴)
- 家族がけがをすると家族全員が津波により死に至る可能性が増す
- 強く長いゆれを感じたら、すぐ津波からの避難を開始
- 警報や地震速報などの人工のシステムにたよらないこと
- 大きな声を出し避難を呼びかける